

Phono Module

Phonoequalizer



モジュール式フォノイコライザー

真空管回路のモジュール式フォノイコライザー

OCTAVE(オクターブ)社の設立後、Andreas Hofmann(アンドレアス・ホフマン)は、トランスではなくヘッドアンプによるMC入力のフォノプリアンプの開発を開始させました。というのも、トランスが浮遊磁場に非常に敏感であると同時に、負荷インピーダンスや増幅率の観点で制限があったからです。

真空管回路に基づく単体フォノイコライザーは、アナログ再生においてクオリティを求める音楽愛好家に好まれています。しかし、一般的に信号出力レベルが極端に低い昨今のMCカートリッジを使用する場合には、MC昇圧トランスを使用して全体のノイズを許容範囲のレベルまで抑えない限りは真空管回路のフォノステージには接続できません。Phono Moduleは、真空管とソリッドステートデバイスの両方を組み合わせています。ソリッドステート回路を組み込むということは、MC入力部にとっては最適な選択肢です。真空管のみを用いた場合、受け入れ難い程の高レベルのノイズという結果になってしまいます。低出力MCカートリッジの出力は、オール真空管の入力段にとっては低過ぎるレベルです。最新技術のソリッドステート回路によるMC入力を活用するために、Octaveでは新たに真空管の最適信号範囲で操作する真空管RIAAイコライザ段を開発しました。

ロングセラー製品 HP500SE プリアンプのフォノ部

RIAA等価回路は、発売以来、高い評価を受けているOCTAVEのHP500SEプリアンプ/フォノ部の真空管回路を基に設計されています。RIAA段には、RIAA補正に必要な高ゲインを確立させるために、3本の真空管が搭載されています。MC入力段のトランジスタデバイスやRIAA出力段の真空管という“フォノモジュール”の構成全体においても、透明度やSN比に関して、既存の優れた真空管設計にも勝るフォノイコライザーアンプの実現を可能なものになります。出力インピーダンスは非常に低く、可変出力のノイズレベルは-110dB以上と、最高のプリアンプがなし得る数値に匹敵します。可変出力モジュールの特徴は、ハイブリッド設計にあります。

オプションの入出力モジュールを目的に応じてお使いいただくことで、OCTAVEのPhono Moduleは完結するのです。

OCTAVE

Phono Module

オプションの入力モジュール

OCTAVEのPhono Module(フォノモジュール)は、それぞれ別売りの4種類の入力モジュールと3種類の出力モジュールを組み合わせることで、目的に合った機能を付加できるフォノイコライザーです。4種類の入力モジュールは同時使用が可能です。入力モジュールは3ユニットまで搭載できます。

IN1: 入力インピーダンスを1kΩか47kΩに切り替え可能なシングルエンド(RCA)MMモジュール

IN2: 入力インピーダンスを62~1kΩの13段階に切り替え可能なシングルエンド(RCA)MCモジュール。*2段階のゲイン調整が可能

IN3: 【IN2】同様のインピーダンスとゲイン調整を可能にする、XLR入力ジャックが搭載されたバランスMCモジュール

IN4: ラインレベル入力(RCA/XLR)モジュール。CDプレーヤなど2台のラインレベル出力装置の接続が可能



プリアンプ機能も持つ、出力モジュール

出力モジュールは3種類あります。アウトプットモジュールはいずれか1ユニットを選択して搭載してください。

OUT1: 2系統のRCA出力を装備した標準のシングルエンド出力モジュール。1つは固定出力、そしてもう1つはボリュームを経由する可変出力となります。

OUT2: 2系統のRCA出力を装備したシングルエンドの『Direct Drive』対応出力モジュール。このモジュールではプリアンプを使用せずにパワーアンプを直接駆動出来るよう、低出力インピーダンスを可能とする出力バッファと音量調整機能が搭載されています。フォノプリアンプとして機能させる場合は可変出力を選択してパワーアンプへ接続します。可変出力にした場合は真空管(ECC88)で構成された出力段を使用します。固定出力はプリアンプ又はプリメインアンプのプリ部を駆動しフォノイコライザーとして使用するためのもので、ラインレベル信号がダイレクトで出力されます。

OUT3: バランス(XLR)出力も可能な『Direct Drive』対応の出力モジュール。完璧なバランス変換を実現する真空管を含む回路構成が特徴。この出力も【OUT2】同様、パワーアンプを直接駆動することが可能です。XLR出力については可変、通常ゲイン固定、2倍ゲイン固定の3種類に設定ができます。XLR出力のゲイン調整は必要に応じてモジュールの基板上で設定を変更することが可能。可変出力にした場合は真空管(ECC88)で構成された出力段を使用します。RCAラインレベルは固定出力で、プリアンプ又はプリメインアンプのプリ部を駆動、フォノイコライザーとして使用するためのものです。



外部電源ユニット/シルバー



外部電源ユニット/シルバー

OCTAVEのPhono Moduleは、増幅部に対する電源回路の影響を回避するために外部電源ユニットを用いています。

OCTAVE

Phono Module



IN 1



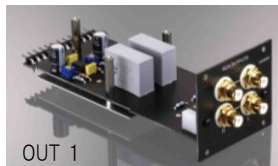
IN 2



IN 3



IN 4



OUT 1



OUT 2



OUT 3

価格

本体 + 外部電源 (*モジュールは別売り) ￥535,500 税込(本体価格 ￥510,000)

インプットモジュール

+

IN 1: MM RCA×1 系統/ 入力インピーダンス 1k/47kΩ 可変 ￥58,800 税込(本体価格 ￥56,000)

IN 2: MC RCA×1 系統/ 入力インピーダンス 62~1kΩ 可変 ￥80,850 税込(本体価格 ￥77,000)

IN 3: MC XLR×1 系統/ 入力インピーダンス 62~1kΩ 可変 ￥80,850 税込(本体価格 ￥77,000)

IN 4: Line Level : RCA×1 系統/ XLR×1 系統 ￥80,850 税込(本体価格 ￥77,000)

アウトプットモジュール

+

OUT 1: RCA×2 系統 (固定出力、可変出力/各 1 系統) ￥56,700 税込(本体価格 ￥54,000)

OUT 2: RCA Direct Drive 対応 ※可変出力選択時
RCA×2 系統 (固定出力、可変出力/各 1 系統) ￥102,900 税込(本体価格 ￥98,000)

OUT 3: XLR Direct Drive 対応 ※可変出力選択時
RCA×1 系統 (固定出力) ￥102,900 税込(本体価格 ￥98,000)
XLR×1 系統 (固定出力/2 段階調整、もしくは可変出力)

*インプットモジュールは 3 ユニットまで設置可能。アウトプットモジュールは 1 ユニットのみ。

別売り リモコン(ボリュームコントロール) ￥45,150 税込(本体価格 ￥43,000)

組み合わせ例

① インプットモジュール【IN1】+アウトプットモジュール【OUT1】の場合..... ￥651,000 税込

② インプットモジュール【IN1】+【IN3】+アウトプットモジュール【OUT3】の場合..... ￥778,050 税込

③ インプットモジュール【IN2】+【IN3】+【IN4】+アウトプットモジュール【OUT3】+リモコンの場合... ￥926,100 税込



写真: インプットモジュール【IN1】+【IN3】+【IN4】+アウトプットモジュール【OUT3】 ￥858,900 税込

Phono Module

標準モデル	Phono Module
使用真空管	ECC83 x 1, ECC81 x 1, ECC88 x 1,
オプション	アクティブ可変出力, XLR 出力,
仕上げ	アルミニウムシルバー/アルミニウムブラック

仕様

SN比	-100dB
出力インピーダンス	240Ω (RCA)
最大出力レベル	7V RMS
歪み	0.01%以下
ゲイン	0dB

可変アクティブ出力

SN比	-100dB
出力インピーダンス	240Ω (RCA/XLR)
最大出力レベル	7V RMS
歪み	0.01%以下
ゲイン Low/High	0dB/15dB

フォノセクション

ゲイン MM - 固定出力	38dB
ゲイン MC - 固定出力 Low/High	58dB/65dB

フォノ MC

入力インピーダンス	62~1kΩ 可変 (13 ステップ可変)
SN比 (RCA)	-69dB/-75dB
SN比 (XLR)	-72dB/-78dB
サブソニックフィルター	20Hz/-3dB

フォノ MM

入力インピーダンス	1k/47kΩ 2段階切り替え可変
SN比 (RCA)	-77dB
サブソニックフィルター	20Hz/-3dB

PSU Booster 端子

現在は使用不可。将来的に Phono Module 用の BLACK BOX を接続予定

全般

消費電力	25W
プリアンプ重量	9~12.5kg (搭載モジュールによる)
電源重量	4kg
本体	W437 x H80 x D390 (mm)
電源部	W100 x H77 x D230 (mm)
付属品	電源コード

